

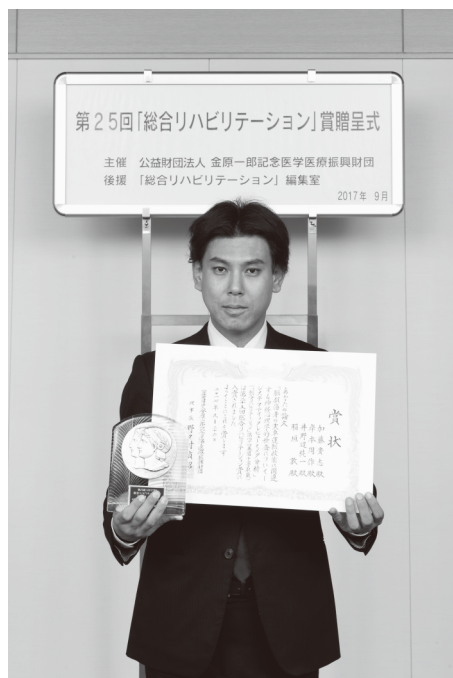
財団法人金原一郎記念医学医療振興財団主催、医学書院「総合リハビリテーション」編集室後援の第25回「総合リハビリテーション」賞授賞式が2017年9月26日、医学書院本社で行われた。本賞は、『総合リハビリテーション』誌編集顧問の上田敏氏が東大を退官する際（1993年）に金原一郎記念医学医療振興財団に寄付された基金を原資として発足した。今回は2016年発行の『総合リハビリテーション』誌に掲載された投稿論文19編の中から、編集同人の推薦を経て、編集委員会による厳正な審議によって選出された。

今回の受賞論文は加藤貴志氏（井野辺病院/作業療法士）らによる「脳損傷者の実車運転技能に関連する神経心理学的検査について——システムティックレビューとメタ分析」〔総合リハビリテーション、2016;44（12）:1087-95.〕である。上田敏氏より、賞状・盾・賞金（10万円）が受賞者を代表して加藤氏に贈呈された。

受賞論文は、脳損傷者の自動車運転技能予測に有効な神経心理学的検査と関連する認知機能を、システムティックレビューとメタ分析により検討したもの。MEDLINEなど8つのデータベースから、脳損傷者に対し実車評価を実施しているなどの基準を満たした研究を抽出し、神経心理学的検査の標準化効果量と統合オッズ比を算出した。その結果、Trail-Making Test-A、コンパススクエアマトリクス、道路標識の効果量が高く、注意力や遂行機能など、複数の認知機能が運転技能予測に関与していると結論付けた。

『総合リハビリテーション』誌編集委員を代表して佐伯寛氏（産業医科大学）は、「医学的・社会的に重要なテーマを扱った着眼点が高く評価された。本領域の実地臨床の発展に大きく寄与すると考えられ、今後のさらなる解明を期待したい」と講評された。そして、「本論文は3回投稿され、三度目の正直でアクセプトされたもの。著者の本テーマに関する熱意、挑戦し続けた忍耐力に敬意を表する」との言葉が贈られた。

「総合リハビリテーション」編集委員会では、「不採用の場合でも、その後の研究に生きるような教育的なコメントをつけてお返ししよう」との考えから、数年前より不採用の論文にもコメントをつけて返却している。それにより、不採用時の返却コメントを参考とし、新規の論文として再チャレンジされる投稿場合がある。受賞論文は、1度目は不採用ではな



加藤貴志氏

かったが、査読者のコメントを受けて「最新の知見も反映しブラッシュアップしたい」との理由で投稿取り下げられ、2度目は残念ながら不採用、3度目の投稿で何度かの修正を経て採用となった。したがって本論文には3人の査読者がかかわっている。

受賞者の加藤氏は、日ごろから指導していただいている周囲の先生方や、編集委員による教育的な査読コメントに対し、感謝の意を示されたうえで、ご自身の論文が初めて掲載されたのが本誌36巻10号掲載の「脳損傷者の高次脳機能障害に対する自動車運転評価の取り組み—自動車学校との連携による評価CARDについて」であったこと、高次脳機能障害者の自動車運転をテーマとした最初の論文が本誌第22巻2月号の「高次脳機能障害とADL—高次脳障害患者における自動車運転の問題点」（前田守氏ら）であり、この論文を礎としてこのテーマに取り組んできたことを語られ、これからも引き続き精進したいと、今後の抱負を力強く表明された。

本誌ではリハビリテーションに携わるあらゆる職種からの論文を募集している。狭き門ではあるが、若手研究者にはぜひ「総合リハビリテーション賞」をめざしてチャレンジしていただきたい。